

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	放課後児童クラブすずらん		
○保護者評価実施期間	R7年1月10日	~	R7年1月23日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	11	(回答者数) 9
○従業者評価実施期間	R7年1月10日	~	R7年1月23日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5	(回答者数) 5
○事業者向け自己評価表作成日	R7年2月7日		

○分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	職員の離職が少なく、経験を積んだ職員が子どもたちの対応にあたることができること。	職員同士が共通認識で子どもたちに対して支援をすることができる。研修を積み重ね、さらなる支援方法の研鑽を継続的に積むことができる。	職員の離職はないが、年齢が1年1年積み重なっていくため、若い人材を確保し、人材育成にも力を入れていきたい。新しい職員を確保し、新たな視点での支援をしたい。
2	同じ法人内の学童保育すみれクラブとの交流を通して、支援の必要なこどもたちが、すずらんだけでなく、通常学級に在籍している子どもたちと一緒に交流を図って、ともに成長することができること。	週に1日、すみれクラブと一緒に活動を計画したり、長期休みに遠足や合同水遊び、学童フェスティバルなど行事活動を一緒に行って、相互交流ができる場を持っている。	今後は学童保育すみれクラブと一緒に对外的なイベントを企画し、すずらんのことを知りたい方、地域との繋がりを持てるようにする。
3	遊びを通して、子どもたちの気持ちのコントロール力を力をつけていたり、長期休みでは課外活動を多く設定し、社会経験を積み重ねていけるようにしていること。	子どもたちが普段の学校生活の中で友達とするであろう集団遊びを療育で行うことでトラブルの対処方法や気持ちのコントロール力が実生活でもそのまま対応できるようにしている。単独バスをもっていないため、公共交通期間をフル活用し、課外活動を行っている。	今後はさらに遊びの種類を増やしたり、すみれクラブの友達との遊びを増やしたり、小集団から中集団、大集団の遊びを増やしたり、遊びの幅、規模を増やしていくようにしていきたい。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	送迎をしていないため、利用時の確保が難しいため、毎年継続経営できるかどうか、不安定である。	送迎をすることが一番ではあると考える。	送迎を今後することは検討するが、まずはすずらんのしている療育を多くの人にインスタグラムやホームページ等で知つてもらい、選んでもらえる施設になるようにしていく。
2	保育士と児童指導員を中心の施設のため、専門的な知識を持った職員での個別療育が対応できていない。	求人をかけているが、なかなか募集がきません。施設の場所も鹿児島市では田舎の方で人気がない。	求人をさらにかけて、経験のある職員の確保に努めていきたい
3	個室はあるが、上部が開いているので、完全は個室ではなく、個別療育や気持ちをクールダウンする際に対応しているが、周りの雑音が入ってきてしまう。	クールダウンをするとき、個別の対応が必要な時に、周りの音や声が入ってしまい、なかなか集中して行うことができないため、子どもたちの気持ちの切り換えに時間がかかってしまう。	個室の上部を閉め切ったり、個別で対応する際は、仕切りを付けたりして、対応していく必要があるが、4月より児童発達支援事業所も始めるので、今後施設の改築等も視野にいれていきたい。